

令和5年度 第3回社会教育委員の会議 次第

日時：令和6年3月27日（水）午後7時～

場所：大野市図書館

出席者 別紙名簿のとおり（欠席者なし）

1 開会あいさつ（委員長）

今年は、元旦の能登半島地震に始まり、北陸新幹線の開通など目まぐるしく世の中が変わっていると感じている。このような中でも、社会教育委員としての役割を果たしていきたい。

2 研 修

（1）図書館業務について

① 図書館の略歴

昭和23年 公民館の中に図書館ができた。その後、県立図書館の大野配本所となり、昭和60年5月に現在の場所に図書館が新築された。平成19年に図書館の拡張、書庫の増築を行った。

蔵書数は、昭和60年は約2万3千冊だったが、今年2月末は、約23万4千冊となった。

② 図書館業務について

資料のとおり

<質疑>

委員 旧和泉村にも県立図書館の配本所があったという写真が残っている。大野も同様のものか。

事務局 旧和泉村と同様で、大野にあった配本所の看板が残っている。

委員 竹内均氏のように、本を寄贈された方はいるか。

事務局 例えば、大野市史の監修をされた方などから多くの本を寄贈いただいている。歴史関係の方が多い。

委員 蔵書は年々増えているが、書庫など余裕はあるのか。

事務局 余裕はある。蔵書は増えているが、一方で、傷んだものや情報が古くなったものなどは廃棄している。主に本市の歴史となるものは残している。また、雑誌は県内で本市だけが購入しているものは永久保存とし、その他は「雑誌差し上げます」で配る。

委員 「おとしょちゃんのうきうきお届け便」やブックトーク、職員の研修先となるなど、学校は図書館に大変お世話になっている。この場を借りてお礼申し上げる。

事務局 図書館側としては、図書館運営協議会や子どもの読書活動推進協議会などに先生方にご参加いただきお世話になっている。こちらこそお礼申し上げる。

委員 自分自身、退職後に本に触れるようになった。

子どもたちはスマホで情報を検索し、じっくり本に触れることが無くなった。子どもたちには、年代ごとの本に触れてほしい。

<図書館 館内見学>

・大活字本、寄贈本、ヤングアダルト、児童書、新着図書、郷土資料等のコーナー

3 協議事項

（1）令和5年度 生涯学習主要事業実施報告について 資料1

<質疑>

- 委員 人材活用事業について、今後人口減少や高齢化が進む中、大野市はどのような考えをもって事業を進めていくのか。
- 事務局 人材活用登録指導者は毎年、新たに加わる方とやめていく方がいる。できる限り、若い指導者を発掘するようにしている。
- 委員 図書館の講演会では、大野市在住の九里順子氏（宮城学院女子大学名誉教授）が講師を務められたが、このような人材を市の社会教育に役立ててほしい。

(2) 令和6年度 第64回福井県社会教育委員連絡協議会総会・研修会について

日時 令和6年5月31日（金）

会場 勝山市民会館

(3) その他

特になし

4 その他

- ・社教情報第90号の配布について

5 閉会あいさつ（副委員長）

図書館は、社会教育の大切な一面であり、日々の地道な活動の積み上げで成り立っていることが分かった。また、図書館が本に出会い、人に出会う場として多くの人に利用していただきたい。